

寿々家南庭一応のお披露目会



このたび、寿々家南庭の整備作業が一段落したことを機会として、日ごろお世話になっている方々に気楽に現在の寿々家の姿をご覧いただきたいと、「寿々家南庭一応のお披露目会」を企画しました。

お披露目会に「一応」とつけた理由は、一段落ついたとはいえ、この庭はようやく形ができたところです。これから、この場の時の流れによって必ず変化があります。庭の造作もその変化を見込み、育っていく庭として人の手による完成は想定していません。したがって、これから皆様にご覧いただきながら育っていく、その変化の基本の形ができたという意味を含めて、「一応」のという言葉为题名に入れました。

最後になりましたが、廃墟同然であったかつての料亭「寿々家」が、再び交流の場として再生活用できているのも、多くの方々のご協力の賜物です。ここに深く感謝申し上げます。

(塀の建て替えなど南庭の整備には、平成27年度わくわく事業補助金を活用させていただきました。)

地域人文化学研究所 代表理事 天野博之



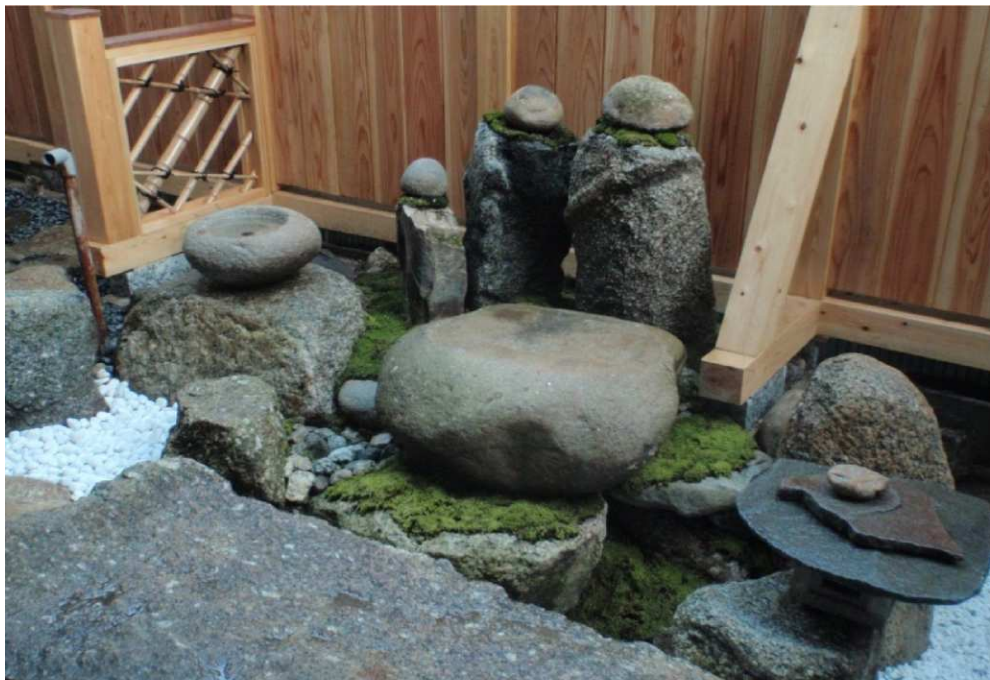
南庭 一応の完成の図(全体空間構成)



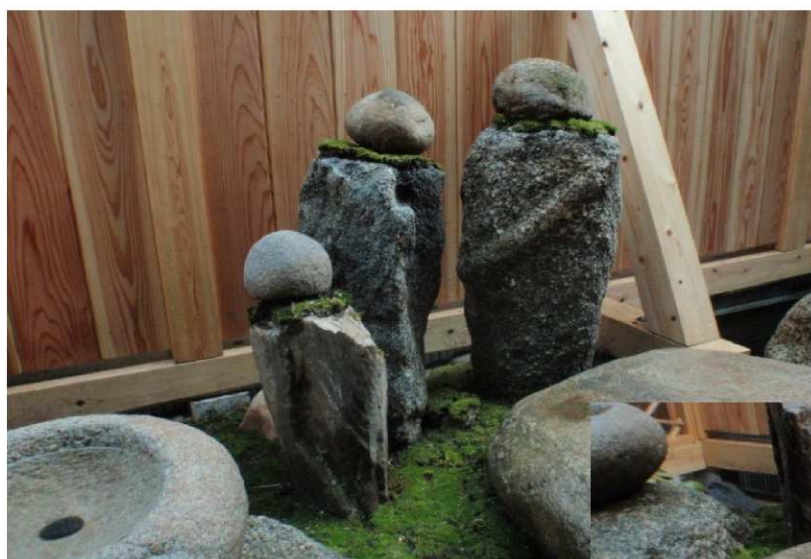
全体構成: 中央の谷が隔てる彼方と此方、そして路地



南庭 一応の完成の図(空間構成:立石と舞台、塀)



「谷」に対する「山」の景色として立石を配置。
当初は枯山水風にする予定だったが、石の表情が雰囲気と合わなかったため、苔で覆って蹲と連続しながらも独立した景色とした。



立石は、元の庭にあった灯籠の竿と宝珠を利用。竿と宝珠の間の「火袋」と「笠」を除き、「身もふたもない」状態として「虚無」を表現。
虚無であるがゆえに、見る人の気持ちやその時によって、石仏に見えたり、石棒や他の象徴に見えたりと、様々な顔形や動作が現れる。



谷を渡る塀は、石橋の他のもう一つの橋となることを意識して造作。



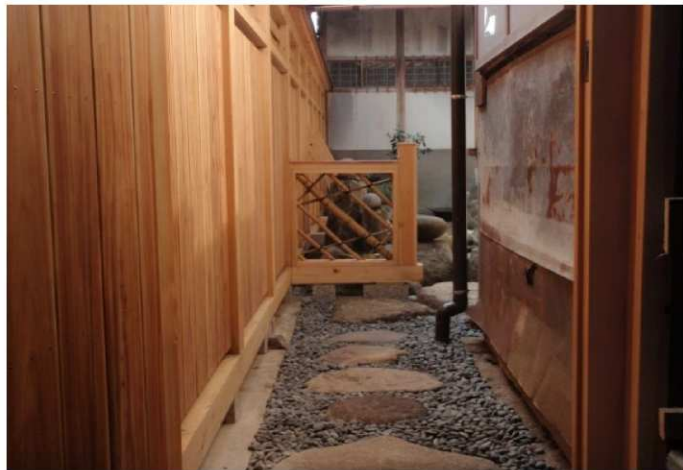
「石舞台」:
元の庭で灯籠が置かれていた大きな石。整備作業に入った当初はこの上にドラム缶を据えて不要物を焼却していた。蹲の水鉢を乗せた石と重なるため移動を図ったが重くて動かず、正面の角度を変えて別の景色をつくることとした。
特に役はないものの平らな面が、立石の前に設えた舞台といえるかもしれない。

南庭 一応の完成の図(空間構成:茶席の意識)



蹲(つくばい)
役石は元の庭にあった配石をそのまま利用。鉢は北庭から移動して配置。

画像は割愛したが谷に置いた灯籠は、用材など型を外して造作した。



「路地」を演出。垣の向こう側が「中庭」



塀の支柱を「垣」の代わりに見立てて竹組みを入れ込んだ。ただし、竹組みの型をはずして松葉を表現。



路地入口の扉は、開ければ塀と一体の意匠になる。

限られた空間ながら、座敷からの眺めだけでなく、庭のあちらこちらに特徴ある「景色」を用意。

躍り口と茶室窓、垣と路地入口門とで、「四角形」を相関配置



寿々家南庭整備の様子(平成24年9月当時)
…まずは伐採から始めた整備



樹木が生い茂り、ジャングル状態。伐採した枝幹の片づけにも手間がかかった。



寿々家南庭整備の様子(平成25年6月当時)



樹木は伐採したものの、寿々家再生プロジェクト作業で発生した多量の廃材に再び覆われる。



廃材の処分も悩ましかった。

寿々家南庭整備の様子(平成26年10月当時)



足助ゴエンナーレ
(第1回)開催時、参
加学生たちによるラ
イブペイント実施。

元の塀は土壁で、部
分的に崩れ、基礎も
腐ってもろくなっ
たため、撤去を予
定。



寿々家南庭整備の様子(平成27年6月～)



土塀の撤去。
大量に出る壁土は、木舞と土
を分別し廃棄。
木部は一気に崩して処分。



塀の撤去と再建築は、27年度
のわくわく事業による補助金を
活用させていただいた。



寿々家南庭整備の様子(平成27年6月～)



地方作業。建物側からの水はけを良くするため、庭の地盤を下げる。



思いもよらず大きな石が出現。
(右上の画像)
しかも大量。



もともと中央に大きな谷を掘ることを予定していたが、その形状や詳細の計画は石や池の出現で作業のつど変更。



石橋の下は50cmほど土に埋まっていた。

それを取り除くと、左の画像の網掛け範囲が池であったことが判明。



上の画像で土の断面が見える高さ30cmほどは、推定される池の水面。
土の層からある時期に一気に埋められたことがわかる。



寿々家南庭整備の様子(平成27年6月～)



谷の出口をふさいで
いたコンクリートブ
ロックの撤去。
昔は階段だったよう
だ。

狭い場所なので、石の移動も
人力だけが頼り。
運び出せない石は、組み直し
て再利用。



多量の石の出現等により、計
画は何度も変更した。
最終的には、その時々で思い
ついた考えを形にしていって



地方作業のめどがついてか
ら、塀の再建築の作業に入っ
た。
この後の作業状況は割愛。

寿家 その他の庭整備前の様子(平成24年)



玄関前(北庭):
当時、北側の門は「開かずの
門」だった。

玄関前(北庭):
十数年放置され樹
木が生い茂り、お化
け屋敷状態だった。



「空中庭園」:
トイレ棟の屋上に作られた庭
も、見事にジャングルに成長し
ていた。

寿々家 その他の庭整備前の様子(平成24年)



「空中庭園」:
まずは伐採作業。その後に大
量の土の処分が待っていた...

中庭:
本館と新館の間の
屋上庭園。そして、
ここも最初はジャン
グル状態だった。



中庭:
伐採した樹木やごみの処理に
も悩まされた。そして少なくした
とはいえ、土や石の処分は今
後の課題。